

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 早鞆 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

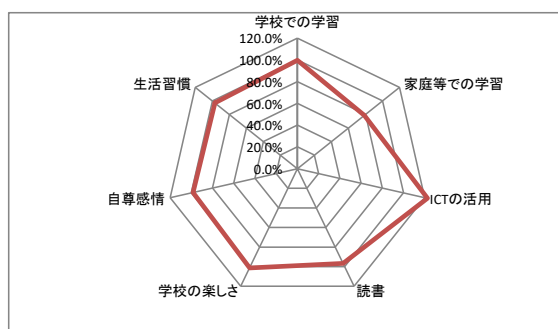
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能については全体的に全国平均と比較して下回っている。思考力、判断力、表現力については全体的に全国平均と比較して下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	漢字の行書の読みやすい書き方を理解したり、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する。	
	努力が必要な問題	場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈したり、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと	
数学	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能については全体的に全国平均と比較して下回っている。思考力、判断力、表現力については全体的に全国平均と比較して下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	多数の観察や多数回の施行によって得られる確率の意味を理解している。	
	努力が必要な問題	筋道を立てて考え。事柄が成り立つ理由を説明することが課題である。	
理科	全体的な傾向や特徴など	知識及び技能については全体的に全国平均と比較して下回っている。思考力、判断力、表現力については全体的に全国平均と比較して下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	複数の脊椎動物外部形態の考察について共通点と相違点を分析して解釈することができる。	
	努力が必要な問題	水素を燃料として使うしくみについて分析して解釈できることが課題である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をしている時間が全国よりやや多い。家庭学習時間がその分、全国と比べて減少している。 ・将来の夢や希望をもっている生徒は全国と同じくらいであり、人の役に立ちたいとも考えている。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

話し合い活動や自分の考えを発表する機会等において、ICT機器を使いながら、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組立てなどを工夫させる授業展開を今後更に継続していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

多くの生徒が家庭学習に意欲的に取り組むことができるように、良い例として、一生懸命に取り組んでいる生徒の家庭学習ノートを廊下等に掲示していく。